



Data 2022-109

監督・脚本: マチュー・アマリック
ク

原作: クロディーヌ・ガリア『Je reviens de loin』

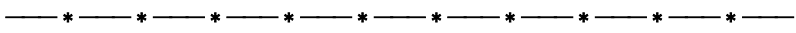
出演: ヴィッキー・クリープス/アリエ・ワルトアルテ/アンヌ＝ソフィ・ポーウェン＝シャテ/サシヤ・アルディリ/ジュリエット・バンヴェニスト/オーレル・グルゼシク/オーレリア・プティ/エルワン・リバー

👁️👁️ みどころ

M・ナイト・シャマラン監督の『シックス・センス』（99年）では、「君はいつわかった？」が社会現象になるほど観客の“感度”が試された。しかし、マチュー・アマリック監督の本作に見る、あなたの“感度”は？

「現在、過去、未来・・・」から始まる渡辺真知子の『迷い道』はわかりやすい曲だったが、本作に見る全く脈絡のない物語（エピソード）の羅列は一体ナニ？ヒロインは何のために、家族の写ったポラロイド写真で神経衰弱ゲームをしているの？その場所はどこ？

“その瞬間、涙が堰を切り溢れ出る”はずだが、あなたにとってのその瞬間とは？たまには、こんなクソ難しい映画を本腰を入れてしっかり楽しみたい。



■□■ネタバレ厳禁！あなたの“感度”は？■□■

M・ナイト・シャマラン監督によるブルース・ウィリス主演の『シックス・センス』（99年）は、ネタバレ厳禁の代表作。同作は、これまで多くの子どもたちを救ってきた小児精神科医と8歳の少年とのカウンセリングを通じた心の交流の中で、“あつと驚く秘密”が明らかにされていくものだったが、同作では何よりも観客の“感度”が試された。

しかし、マチュー・アマリック監督も、本作については「彼女に何が起きたのか、映画を見る前の方々には明らかにしないでください。」と厳重に警告している。そして、事前に明かされた本作のストーリーは、「家出した女の物語、のようである」の一行のみ。フランス公開時にも物語の詳細は伏せられ、展開を知らない観客がある事実気付いた時、心が動揺するほど感動した、というのが本作の“売り”だ。

ネタバレ厳禁を謳う作品は近時も多いが、本作は『シックス・センス』以来もっともそれを徹底させている。しかし、さあ、本作についてのあなたの“感度”は？

■□■現在・過去・未来が交錯！さっぱりわからん！しかし、■□■

2作目の楽曲『かもめが翔んだ日』で有名な歌手、渡辺真知子が歌ったデビュー曲『迷い道』の歌い出しは、「現在、過去、未来 あの人に逢ったなら わたしはいつまでも待っていると誰か伝えて まるで喜劇じゃないの」というものだった。

本作はマチュー・アマルリック監督が見出した女優、ヴィッキー・クリープス演じるクラリスが、自宅でぐっすり眠っている娘リュシー、息子ポール、夫マルク（アリエ・ワルトアルテ）に別れを告げないまま一人車で家を出ていくシークエンスから始まる。人間は車の運転席に一人で座ると、俄然わがままになり、本性が出るものだ。クラリスは今、カセットテープを聞きながら、すべての束縛から解放されたような爽やかな顔で車を走らせていたが、彼女は今どこへ向かっているの？何よりも、そもそもなぜ一人で車に乗っているの？映画は便利な芸術で、時空を超えて現在、過去、未来を自由にスクリーン上に描くことができるし、タイムスリップさえ可能だ。

今クラリスが車の中で聞いているのは、娘のリュシーがたどたどしく弾くベートーヴェンのピアノ曲『エリーゼのために』だが、本作はここから現在、過去、未来を交錯させながら、断片的な物語が目まぐるしく展開していくから、そのストーリーを読み取るのは難しい。というより、はっきり言えば、さっぱりわからん！というのが私の実情だ。こりゃ一体何の映画？娘が弾くピアノのレベルは次第に上がり、ある時点では演奏者にまでなっているが、これは一体なぜ？本作がタイムスリップものでないことは確かだから、しっかり“感度”を研ぎ澄ませてストーリーの意味を把握しなくては・・・。

■□■娘のピアノ演奏に注目！しかし、これもかなり難解！■□■

私は本作をたまたまマチュー・アマルリック監督 VS 濱口竜介監督の対談映像付きで観たが、この2人の対談は奥が深く、興味深かった。濱口監督ですら本作を二度、三度と観たそうだから、並みの感度の人なら、当然二度、三度と観る必要がある。そして、そのたびに新しい発見があるはずだ。

リュシーが弾く『エリーゼのために』の練習バージョンから始まる本作は、前述のように次第にピアノのレベルが上がり、中盤には音大への入学に向けて頑張るリュシーの姿や、演奏家としてピアノを弾いているリュシーの姿が登場する。しかし、それは一体なぜ？それぞれのシーンでリュシーが弾いている曲はきちんと解説を読まなければわからないものばかりだが、それぞれかなりのレベルのピアノ曲らしい。しかして、そんな不可思議なストーリー展開の中、今数人の試験官たちの前でピアノに向かってるリュシーの姿を見るためにクラリスが部屋に入ってきたから、びっくり！いくら母親でもそんなことは許されないのでは？そう思っていると、アレレ、アレレ。スクリーン上は意外な展開に・・・。

さあ、数々のピアノ曲の理解とともに、ストーリー展開についてのあなたの感度は・・・？本作はパンフレットも充実しており、その中には3本のレビューと1本のエッセイがあるので、それもじっくり読み込みたい。感度の高い人なら、ここらあたりで、『シックス・セ

ンス』の時と同じように、ああ、なるほど・・・となっていくはずだが・・・？

■□■脈絡のない物語の羅列は一体何？神経衰弱ゲームは何？■□■

スマホ全盛時代の今、ボラロイドカメラの出番は少なくなっている。しかし、ボラロイドカメラは撮るたびに1枚ずつプリントアウトされてくるから、それをトランプの神経衰弱ゲームの代わりに使うには便利・・・？かどうかは知らないが、本作ではホテルに一人で泊まっているクラリスが、ボラロイドカメラで写した写真をそのゲームの代わりに使っているシーンが登場する。その写真は家族のものばかりだが、これは一体いつどこで撮ったもの？そして、そもそもクラリスは今、なぜ一人でそんな遊びをしているの？クラリスを演じた女優は、「今、ヨーロッパNo.1女優」と言われているうえ、本作は彼女のベストと言われる演技が絶賛されている。そのため、彼女は本作で、2022年のセザール賞最優秀女優賞にノミネートされており、パンフレットではそれが、「精悍で快活でありながら、繊細な演技でクリープスと見事な化学反応を見せている。」と表現されている。

もっとも、本作はさまざまなストーリー（エピソード）が時系列を超えて何の脈絡もなく登場してくるので、とにかく「ワケがわからん」というのが実情。冒頭のシーンからは、彼女が一人車に乗って家出をしてきたように思えるのだが、もしそうだとすると、その理由は？その行き先は？そう思っていると、アレレ、アレレ・・・？ある時は、観光地でドイツ語の通訳兼ガイド（？）をして生計を立てている彼女が、わが子を叱る父親に食ってかかる風景が描かれる。また、ある時は、雪山の中に建つホテルの中で、数人分の食卓を独占して一人で食事する彼女の姿が描かれる。さらに、ある時は、バーでしたたかに酔った彼女が、居合わせた男性客にしがみつく（？）風景も登場する。そんな中、本作でセザール賞にノミネートされた女優ヴィッキー・クリープスが、あるシーンでは幸せそうな顔を、あるシーンでは悲しげな顔を対照的に見せてくれるので、それにも注目！

このような本作における脈絡のない物語（エピソード）の羅列は一体ナニ？本作のチラシには「少しずつ見えてくる家族の真実。」「その瞬間、涙が堰を切り溢れ出る。」と書かれているが、さて、あなたの涙が堰を切り溢れだすのは、どの瞬間？

■□■『キネマ旬報』の評価は、星4つ、4つ、5つ！■□■

私は、観る映画を選択するについて、『キネマ旬報』の「REVIEW 日本映画&外国映画」をよく参考にしている。自分でも気が進まない作品について、そこで低評価していると一安心して無視することができるわけだ。もっとも、映画の好き嫌いや評価の仕方は人によってそれぞれだから、あまりそれにこだわるのもよろしくない。

しかして、『キネマ旬報』9月上旬特別号のそれにおける本作の評価は星4つ、4つ、5つであるうえ、三氏の文章もほぼ絶賛調だから、これは必見！本作については、偶然ながら濱口竜介監督との対談映像付きで観ることができたことにも感謝！さらに、二度、三度と観る時間的余裕はないが、誰かとじっくり語り合いたくなる作品に巡り会えたことにも感謝！

2022（令和4）年9月23日記